

# 論点5に関する意見

(専門家ではないので、個人的な知見に基づくメモ)

工学院大学建築学部 遠藤新

## 現状の教育環境を拡張するなら…学びを深める & 広げる視点、学び以外の視点

- 学びやすさ：視覚的聴覚的な補助教材、子ども視点でのヴァーチャルな体験教材、繰り返し学習の可能な教材、等
- 教えやすさ：子どもへのフィードバックの効率化、アンケート等の効率化、図書館等の特別教室機能の拡張、等  
→図書館の解体？ or 個別教室そのもののラーニングコモンス化  
(アーカイブ機能とその他の分離？)
- 学び以外：安全性向上、安心感向上、効率性向上、等の視点から拡張可能性を考える  
居場所の議論との接続 (ICT活用で居場所のあり方が大きく変わる？)

## ICT活用により可能な教育環境？ (「望ましい教育」の前に、何をどこまで想定するのか?)

- オンライン授業の本格導入：遠隔授業 (専門家、海外、地域の企業等)、諸事情による家からの授業参加、等の可能性
- デジタルリソースの積極活用：デジタルアーカイブの活用、オンデマンド資料の活用、等による授業の効率化と深度化
- 課題・宿題の合理化：宿題等のデジタル配信・自動採点、あるいは採点作業のアウトソーシング等
- 授業外での可能性：学校／家庭／PTA／卒業生等での連絡・情報展開の効率化等
- メタバースへの展開：仮想空間における特別教室の開設・学校の開設、教育サービスのパッケージ利用、等

## ICT活用教育の課題や懸念①：教育環境の質を誰がどのようにマネジメントするか？

- 導入するアプリ＆ソフト＆技術に思考や作法が大きく制約を受ける
  - 複数手段を使いこなせる教育とそうでない教育の格差  
(効率的でない仕組みはその価値を位置づけないと淘汰されそう…)
  - 従来の教育内容をデジタル化する、というよりデジタルツールを使った新しい教育コンテンツとして考えることが必要
  - コンテンツ作成はかなり手間がかかる (教員の負担増、学校間の格差、科目間の格差)
  - できること／できないこと、やるべきこと／やらなくてもいいこと、の整理  
(中途半端な導入は無駄多し)
  - 感情のやりとり、コミュニケーション、視覚聴覚情報への過度な依存の弊害  
(生き物や環境には匂いや生々しさがある)
  - SNSなど子どもにとって身近なICTツールと接続できるのか？ (大学では導入)
- 教える側のICTリテラシー向上：研修制度、専門技術者の雇用・育成、等
  - 教職科目とICTリテラシーの関係は？
- セキュリティ対策：基本はゼロトラストセキュリティ
  - 子どもには難しい？ かといって教員だけでの対応は無理
- オンライン上の多様なコンテンツから自主的に学ぶことが可能だとした場合、そもそも「教員」とは何か？
  - 教える側の「経験」を重視？ (若手教員はどうするのか？)
  - 教える側の「思考」を重視？ (小学生低学年等には高度過ぎる？)
  - 教える側の「身体性」を重視？ (身近な見本？ より身近になることが求められる？)

子どもが教員とのリアルな関係の中で見いだすこと(気づき、価値)が、大きく変わりそう…

## ICT活用教育の課題や懸念②：「ICTを活用する教育」の外側をどこまで想像できるか？

(どこまで対処できるか？)

- デジタル環境（ソフト／ハード）のアップデートと維持管理（コスト、技術）、電力使用量とか停電対応とか
- 地域や学外との距離が近くなる：クレームの複雑化、クレーム対応の複雑化
- 端末をどのように保有するか？
  - 学校貸与端末の様々な不自由さ、各家庭の個別事情への対応はどこまで可能か
- デジタル技術の進化速度に学校教育(国→→現場)の意思決定速度は対応できるのか？
  - 試行するモデル校が乱立？